

胎内市総合計画策定に係る市民ワークショップ

第1回ワークショップの報告

1. ワークショップの概要

◎テーマ：胎内市の現状の整理

◎日時：2016年2月17日（水） 19:00～21:00

◎会場：胎内市役所 501 会議室

平日夜 7 時からのスタートでしたが、15 名のワークショップ参加者と総合計画策定審議会委員等の方々にお集まりいただき、とても賑やかな会となりました。

顔合わせの第1回目は、市の現状と課題を整理することが狙いでしたが、意外な事実や今後のまちづくりの方向性まで話が進むグループもあるなど活発な意見交換が行われました。意見交換は、現在の総合計画の枠組みに則り「自然環境」「福祉・健康」「産業振興」の3グループに分かれて進めています。

グループ毎の成果を次頁に掲載していますのでこちらもご覧ください。

2. 当日の流れは・・・

①開会挨拶



はじめに、胎内市より開会のあいさつと市民ワークショップを開催する狙い、ワークショップの心得などをご説明しました。

②資料の説明



今回のテーマである「総合計画」の概要やワークショップの進め方をご説明しました。

③グループ別討議



まず、はじめましての自己紹介。その後、胎内市の現状を青（良い点）、赤（悪い点）、黄（その他）の3色の付箋に記入して、整理しました。

④全体発表



各グループともとても分かりやすい見事な発表で本日の作業は終了。皆さんお疲れ様でした！

3. 次回の予定は・・・

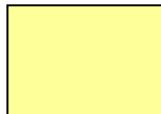
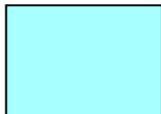
◎次回は、3月16日（水）19:00～21:00 開催の予定です

今回話し合った胎内市の現状や課題を踏まえ、これからのまちづくりにおいて目標とするイメージやテーマをまとめます。

↓ 第1回ワークショップの成果は次頁以降をご覧ください！ ↓

4. 第1回ワークショップの成果

報告の見方をご説明します。



この3種類の四角は、ワークショップ参加者が模造紙に貼り付けた付箋を表しています。

胎内市の現状で良いところを青 、悪いところを赤 、その他の特長を黄  の付箋に書き込んで、市の現状の整理を行いました。

なお、付箋の内容は、参加者の個人的な見解として書き込まれたものであり、一部、実際の状況と異なることがあります。ご了承ください。

現在の総合計画の枠組みに則り「自然環境」「福祉・健康」「産業振興」の3グループに分かれてワークショップを進めました。

「自然環境」グループには、①自然環境、②エコ、③文化・教育の分野が含まれています。

「福祉・健康」グループには、①福祉・健康、②少子化対策、③人権・平等、④都市基盤、⑤防災・防犯の分野が含まれています。

「産業振興」グループには、①産業、②雇用、③交流の分野が含まれています。

4-① 自然環境グループ

○胎内市のいいところはまず自然！観光面ではゴルフ場が3つもあったり、春夏秋冬それぞれで見所がある。自然を活かすという意味では、山菜や魚、新鮮な野菜なども強みです。

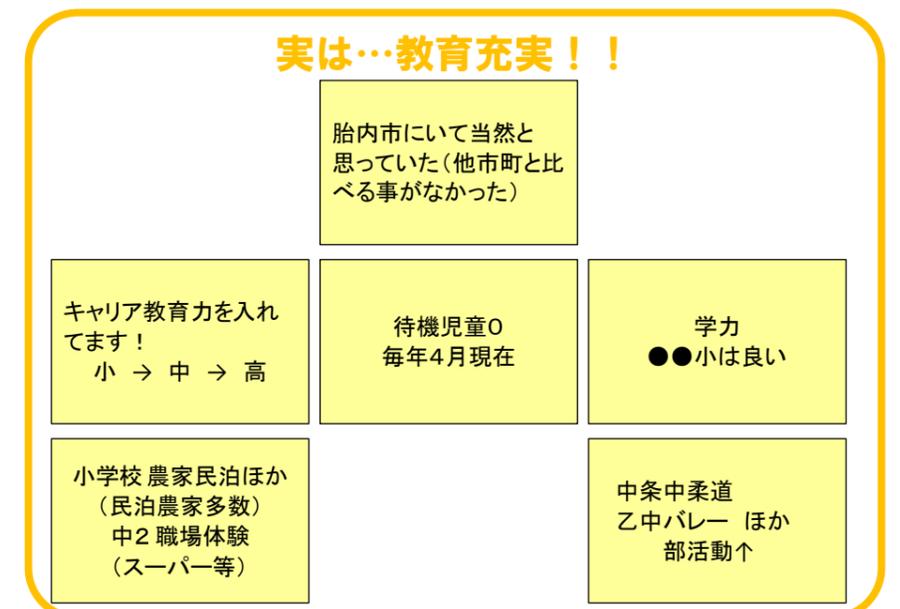
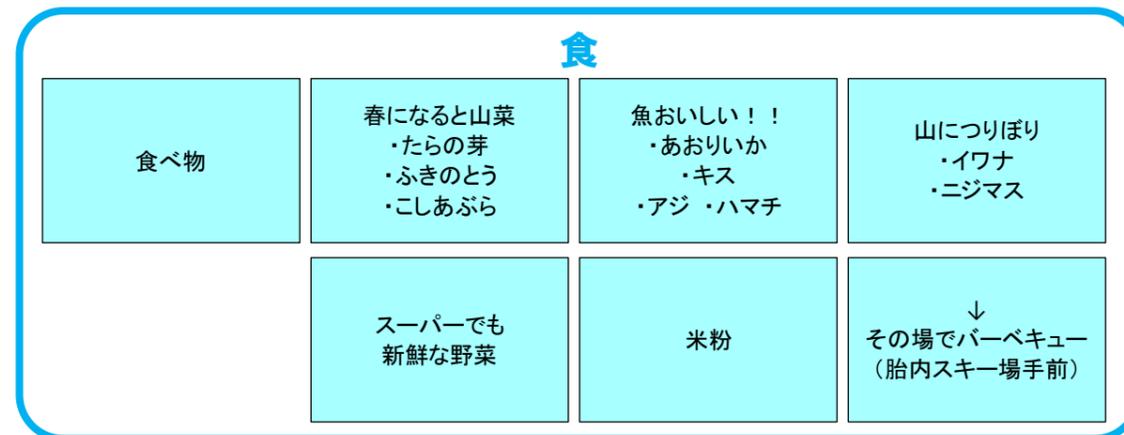
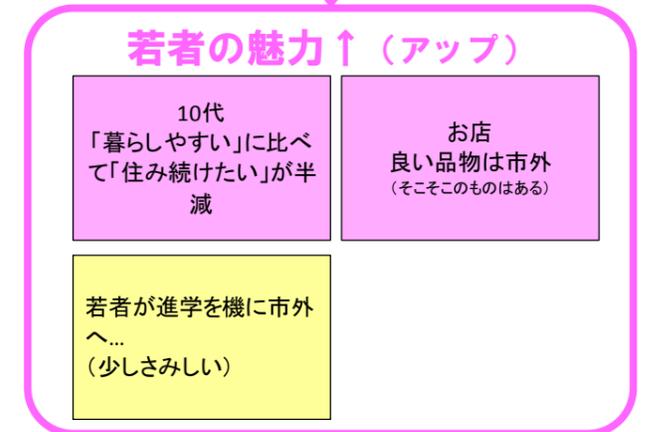
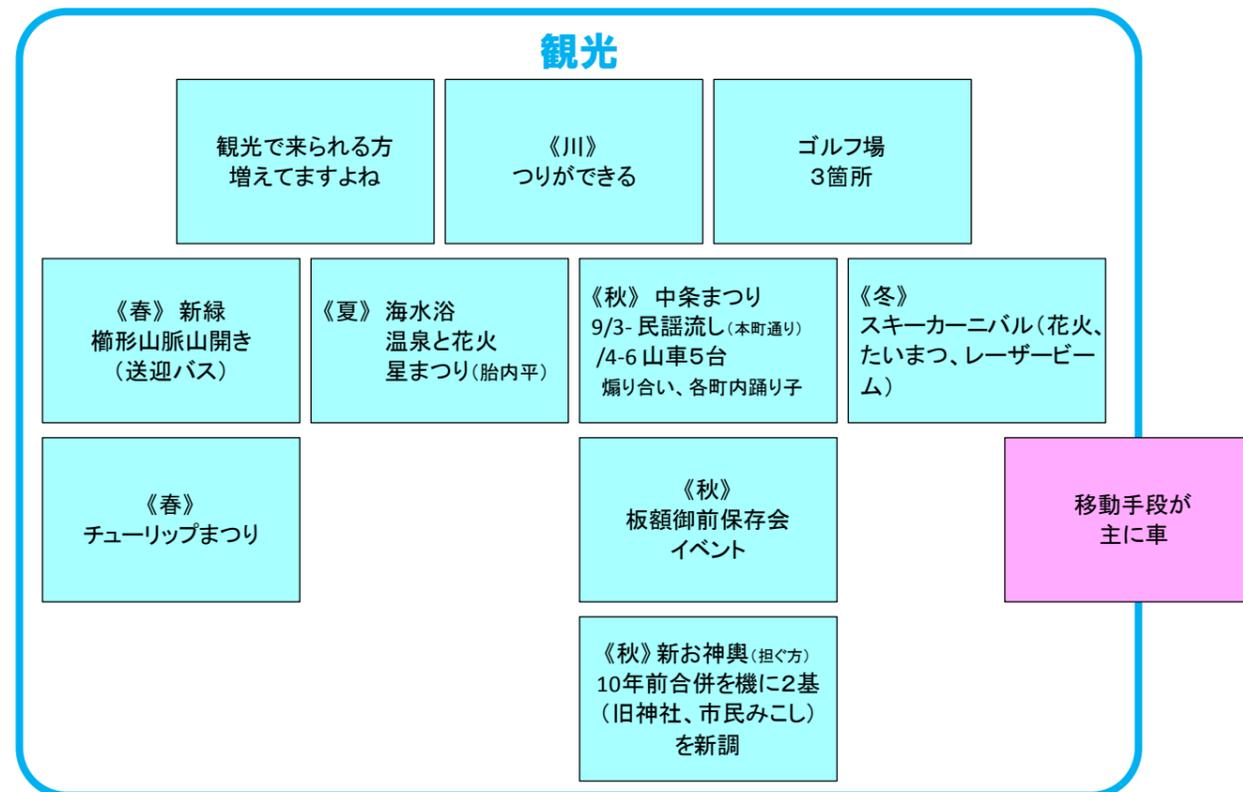
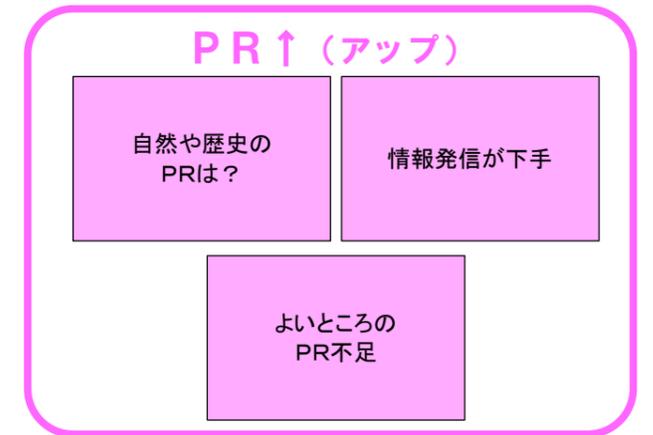
○今日教えもらって驚いたのが、胎内市ではキャリア教育に力を入れており、小学校では農家民泊、中学校では職場体験などを積極的に行っているということ。また、待機児童はゼロで、勉強もスポーツも優秀な学校があるということです。

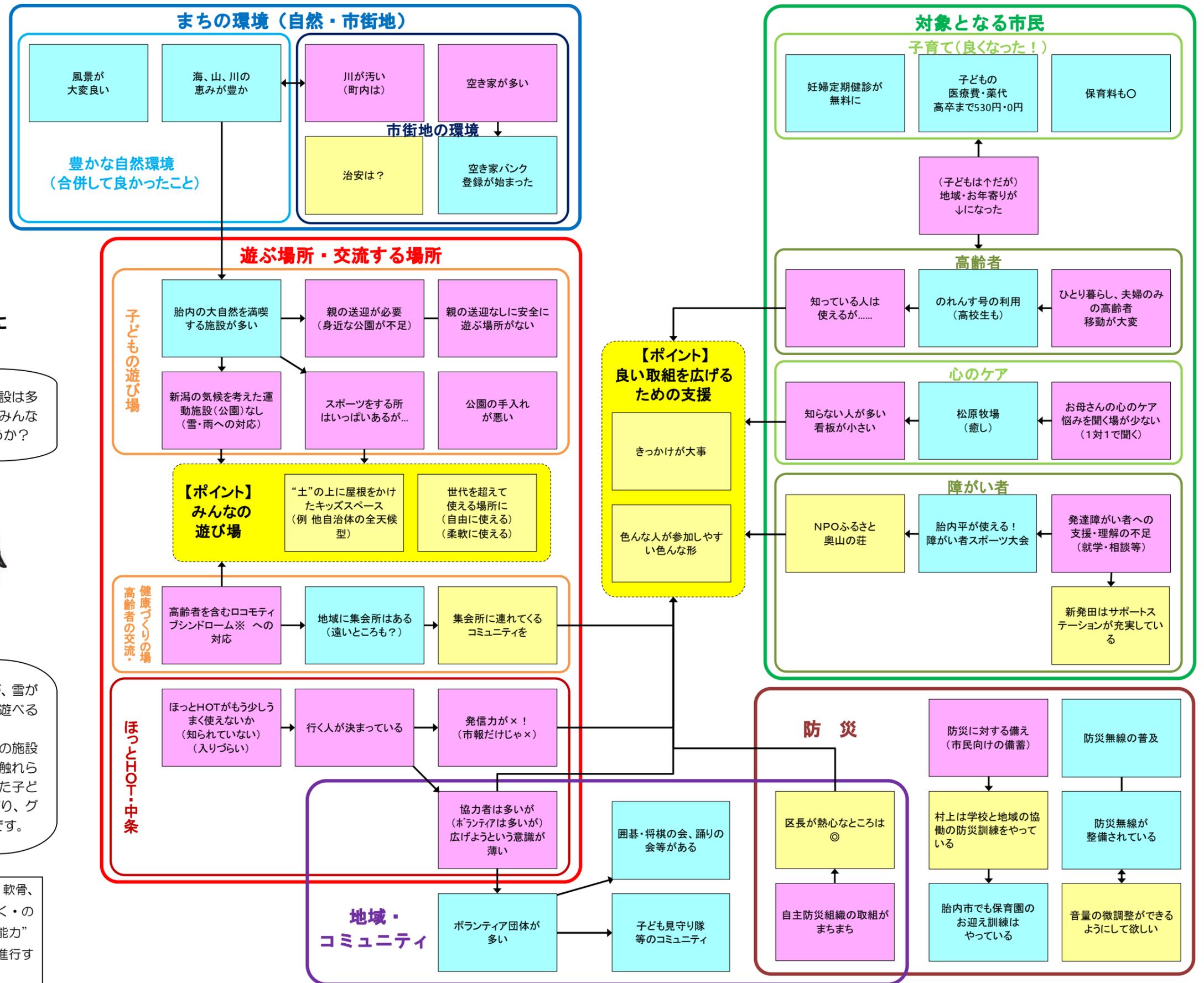
○一方、良いところは沢山あるのにPRが足りない。若者が進学を機に市外へ出て行くことが問題と言う声が多く、このあたりが今後の課題になりそうです。

○交通機関が充実していないため移動手段が車に限られるという点も、観光などに関連する課題の1つだと考えています。



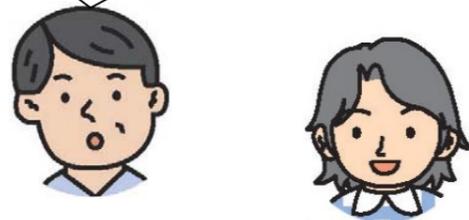
自然環境グループの発表要旨





福祉・健康グループの発表内容に関する質疑応答

Q. 自然を満喫できる施設やスポーツのできる施設は多いという意見があるようですが、その中で「みんなの遊び場」とはどんなイメージなのでしょう?



A. 自然やスポーツ施設はたくさんあるのですが、雪が降っても、雨が降っても、土の上を歩ける/遊べる場所がないねという話が出ました。ここで考えたのは、屋根のかかった全天候型の施設で、壁がなくてその風景を感じながら土に触れられる場所。予約をしないでふらっと遊びに来た子どもや大人、高齢者が、砂場遊びやロープのぼり、グランドゴルフを土の上でできるような場所です。

※ロコモティブシンドロームとは、筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器の障害が起こり、立つ・歩く・のぼるなど、日常生活に必要な“身体を移動させる能力”に何らかの支障をきたしている状態のことです。進行すると介護が必要となる可能性が高くなります。

○県内自治体では「資源があるのに人が来ないのは情報発信が弱いからだ」と考えて情報発信に力を入れたところ、人が来すぎてもてなしきれないという事が起きています。
 ○一度悪い評判が流れるとそれを止められないというのがSNS（フェイスブックやツイッター等）の怖いところ。問題の原因は何なのか情報発信を行う前にもう一度良く考える必要があると思います。



発表内容に関する会場からのコメント

産業振興グループの発表要旨



○農業・観光・雇用・人口・おもてなしの心という5つのカテゴリーに分けて話をしました。

農業
 ○米粉グルメという珍しい食べ物があるのが強みですが、これをもう少し活用できたらいいと思います。
 ○他にもチューリップ、葉たばこなど県内県有数の農産物がありますが、特定の作物に捕らわれず、市全体で「パーマカルチャー※」のような特徴的な農業に取り組んで魅力づくりを図ってはという意見も出ました。

観光
 ○資源はたくさんあるけれど、施設の老朽化などの課題があります。
 ○インターネットで「胎内市 観光」と検索すると、市のホームページや観光協会のSNS等が出てくるのですが、それらの内容がバラバラで、更新されていないものもあるようです。

雇用
 ○良い点は大きな工業施設がある。悪い点は、開発から20年弱経つ工業団地がスカスカ。新卒者が働く企業が少ない。
 ○日本、世界を支える企業がある胎内市。県外から転勤でいらしている方が多くいるはずなので、そういう方と意見交換をすればヒントが見えてくるのでは。

人口
 ○他のグループとも関連する内容ですが、高齢化や商業・農業等における跡継ぎの問題があります。働く人が減ると、仕事内容がきつい職種ではなり手がいなくなるという問題も出てきます。

おもてなしの心
 ○胎内市の物産館、観光施設等で市外の方を優遇すること、県内他市のように、商店街を訪れた市外の人をもてなす意識をもっと持つことなどを考えてはどうでしょうか。

良い点	悪い点	今後の方向性
<p>農業</p> <ul style="list-style-type: none"> “米粉グルメ”という珍しい食べ物がある 又積極的にPRしている チューリップ、葉たばこ etc. 県有数 	<p>農業</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業者の後継者不足 農業の担い手が減少傾向にある 利用されていない農地が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> 米粉をもっと上手に活用 パーマカルチャー※的農業を市全体で取り組んでみたら面白いかも？
<p>観光</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源はある 親子や若者～お年寄りまで楽しめる観光施設が沢山ある レジャーする場がある 体験プログラムがある 学習できる施設（昆虫の家、天文館、フラワーパークetc.）が多くある 	<p>観光</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光施設のさびれ感が否めない... 知人を案内できる場所がない 情報発信があいまい オシャレ感が不足 特化されたものが欲しい 市のホームページ、各団体のSNS等の整理が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 今あるモノコトを活かして欲しい！ 市外からの来街者を大切にすることが必要 マスコミを利用して市を紹介すれば... 自分達がなぜ旅行に行きたいか？という目線で自然と観光について考えてみては？
<p>雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな工業施設（クラレ、水澤化学etc.）がある 	<p>雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業団地がスカスカ 新卒者が働く企業が少ない 求人が少ない（女性は事務職ばかり） 地元企業のリクルート情報が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 県外から転勤でいらしている方がいるはず！！そういう方と意見交換
	<p>人口</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化 跡継ぎ問題 労働人口の減少 	
	<p>おもてなしの心</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地、まちなかに住んでいる人は観光地意識が低いという話を聞いた 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が市外の方々にウェルカムする！ 胎内らしさを考えていく

※パーマカルチャーとは、パーマメント（永久的）とアグリカルチャー（農業）あるいはカルチャー（文化）を組み合わせた造語です。伝統的な農業の知恵を学び、現代の科学的・技術的な知識をも組み合わせて、通常の自然よりも高い生産性を持った『耕された生態系』を作り出すとともに、人間の精神や、社会構造をも包括した『永続する文化』をかたちづくる手法をいいます。